



令和元年度 公開研究会

研究主題

学びを実感できる授業づくり ～学ぶ姿に着目した授業研究を通して～

(第一年次)

令和元年12月10日(火)公開研究会を行いました。県内外の特別支援学校のほか、小学校や大学から34名の方々に参加していただきました。本研究会で得られた、たくさんの御助言を基に、今後より一層の授業改善に努めて参ります。



小学部1年 国語科

「たくさんはなそう」～うごきのことば～

『児童が相手に思いを伝えようとする姿を育む授業づくり』をテーマに協議を進めました。その中で、体験場面を増やし体で実感できる活動の必要性や、その活動を通して、心が動く思考力や豊かな表現力が育まれるという意見が出されました。また、言葉の精選と活用するための工夫や、子どもを見る目を養い、有効な手立てのある「分かる」「楽しい」授業づくりが大切であることを確認しました。



中学部1年 生活单元学習

「おらほのうめものプランニングⅢ」

～試食会で喜んでもらえるわたしたちの

ピザをプランニング～

生徒が自分の学びや、学びのつながりを実感できるように、振り返りに焦点を当て、学習過程の改善に取り組んできました。本時の授業において、生徒の「期待する姿」に迫っていたか、どのように学んでいたか、どのように指導支援を工夫したらよいか等、授業づくりについて活発な協議が行われました。



高等部普通科 作業学習 陶芸班

「受注製品の製作～箸置き、一品皿、どんぶりの製作」

対象生徒の期待する姿を参観者が共有し、授業の中で「何をどのように学んでいたか」という教師それぞれの解釈を重ね合いながらグループ協議が行われました。生徒自身が「分かった」「できた」を感じられるような手立てについて、より深く改善策を話し合い、今後の授業づくりに役立つ意見がたくさん出されました。また、教師自身の学びの機会にもなりました。



高等部環境・福祉課 清掃コース 流通・サービス科
「校内清掃実習

～ランチくりたのポリッシャー清掃Ⅱ期～

「なぜ、なんのために」という問い掛けに対し、生徒が自分の行動を説明できるよう、活動の意味付けを大切にしました。授業づくりに取り組みました。生徒の思考する姿に着目し、先生方それぞれの視点で解釈を重ねたことで、本時の授業をより発展させていくことができる、生徒の卒業後の姿を見据えた改善策にたどり着きました。



寄宿舍 ポスター発表

将来の生活を見据えた「食を通して身に付く力」を育てる生活指導（一年次）

参加者からは

「生徒が興味ある食をテーマにして、様々な力を向上させるアプローチが素晴らしい」

「卒業後に直結する。家庭、学校とも連携しやすい」

「時間厳守、思いやり、協力等今後の活動の広がりが期待できる」

等のご意見をいただきました。